STROKE LAB / CLINICAL NOTE

発話評価・生活支援ノート

AMSDなどによる正式な評価の後、所見を生活支援へつなげる独自の補助票です。
正式な検査課題、全項目の採点欄、基準値は収録していません。

対象者ID：_____　実施者：_____

実施日：_____　原疾患・経過：_____

本人が望む会話｜誰と・どこで・何を伝えたいか

評価条件｜姿勢・聴力・義歯・疲労・服薬後の時間など

使用した検査・版：_____　実施範囲：_____

開始・終了：_____　休憩・分割：_____

確認した所見	関連して確かめたいこと

結果を転記するときは、項目名・尺度・単位を一緒に記録します。
発話明瞭度の評定値と、聞き取れた語の割合（%）は別の指標です。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

一つ変えて、伝わり方を比べる

以下は検査後の支援試行を記録する欄です。標準条件の採点とは分けて使用します。
同じ内容で比べ、聞き手・環境・本人の負担も残します。

対象者ID：_____　実施日：_____

比較に使う内容／聞き手／場所

条件	伝わった内容・聞き返し	本人の負担・必要な援助
普段の話し方		
一つ変えた条件		
別の内容・相手		

変えたこと｜区切り・距離・雑音・道具・その他

役立った方法／合わなかった方法／次に確かめること

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

生活の目標と再評価

検査の変化と、暮らしで使えた変化を並べます。
本票は標準化された尺度ではなく、得点や診断用カットオフはありません。

対象者ID：_____　次回確認日：_____

生活目標｜本人が・誰に・何を・どの援助で伝えるか

本人と家族が使う方法｜具体的な声かけや道具の置き方

日付・場面	伝えた内容と確認結果	必要な援助・負担

再評価｜検査結果・条件の違い・生活の変化

参考：日本音声言語医学会 編「Dysarthria 診療の手引き」（2023）、西尾正輝「新しいディサースリアの臨床2．評価」（2010）。記事中に出典リンクを掲載。
作成：STROKE LAB／2026年10月27日。正規AMSDの改変版ではありません。